

平成24年度 第1回 機械振興補助事業審査・評価委員会 議事要旨

開催日時:平成24年6月1日(金) 15:00~17:10

開催場所:財団法人 JKA 4A・B会議室

出席者:[委員]大山永昭、岡 俊子、金子 聰、鴨志田晃、河田 聡、小舘香椎子、
高千穂安長、中原秀樹、野坂雅一、吉岡 忍、渡辺 博(50音順・敬称略)

*大山氏が委員長、金子氏が委員長代理に就任

[JKA]石黒会長、笹部理事、坂井部長、宮田次長、佐藤副室長

[議題]

(1)補助事業の評価について

(2)平成25年度補助事業の方針について

(3)その他

[プレゼンテーション(平成23年度補助事業)]

黒崎 茂 氏(東京工業高等専門学校元教授)

高橋 良至氏(東洋大学准教授)

[審議結果]

・平成25年度補助事業の方針については、各委員の意見等を踏まえ、事務局が「平成25年度補助方針」(案)を作成し、次回の委員会に提出する。

[意見概要]

・補助事業の方針は、日本のものづくりをどのように守り、空洞化をどのように防ぐかについて強調したものにすることが望ましいのではないかと。

・日本の製造業には、「グローバル化」「国内の地域性」の両面があるが、他国との規格争いに負けると、所謂「ガラパゴス」となり、競争力を失ってしまう。国際規格については、重点を置くべきであろう。

・補助の方針は、JKA が何に重点を置くのかについて、申請者により明確に伝わるものにすべきではないか。

・ポストクの数については、現状、過剰となっているのではないか。その分、産業界に進出する技術者が減少している現況を鑑みると、研究補助の対象にポストクを加えることについては、対象とする研究分野の範囲についても検討が必要であると思われる。

・「事業成果が機械工業全般に波及する事業」であるか否かの審査は、難しいものになるのではないか。

・研究補助の方針についても、JKA 補助事業の原点が社会還元であるのだから、研究補助の方針を明記すべきではないか。

・補助方針のような文章は短くていいと思う。細かい部分は別な形で用意しておいて審査で活用すればよい。

・公設工業試験研究所等の存在意義は、むしろ高価な設備を所有していない中小企業が、それを利用して製品開発等を実施可能となるところにあるのではないか。公設工業試験研究所等に対する補助のあり方については、中小企業がその設備を有効に活用していくことを重視すべきであろう。

・年度毎に、補助の基本方針を大幅に変更するのは避けるべきではないか。

・要望事業のキーワードとして「チャレンジ、チェンジ」等の合言葉を用いることは、補助事業を実際に行う者にとって前向きな意識が感じられて良いと思う。

・補助事業は、最終的に社会貢献しなければ無意味となってしまう。技術に対する評価だけでなく、「社会影響評価」という視点が必要であろう。

*本議事要旨は、JKA事務局が作成した。